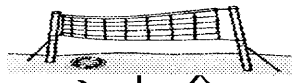


で、でっか〜い！ 第1回町内ヘルスバレーボール大会



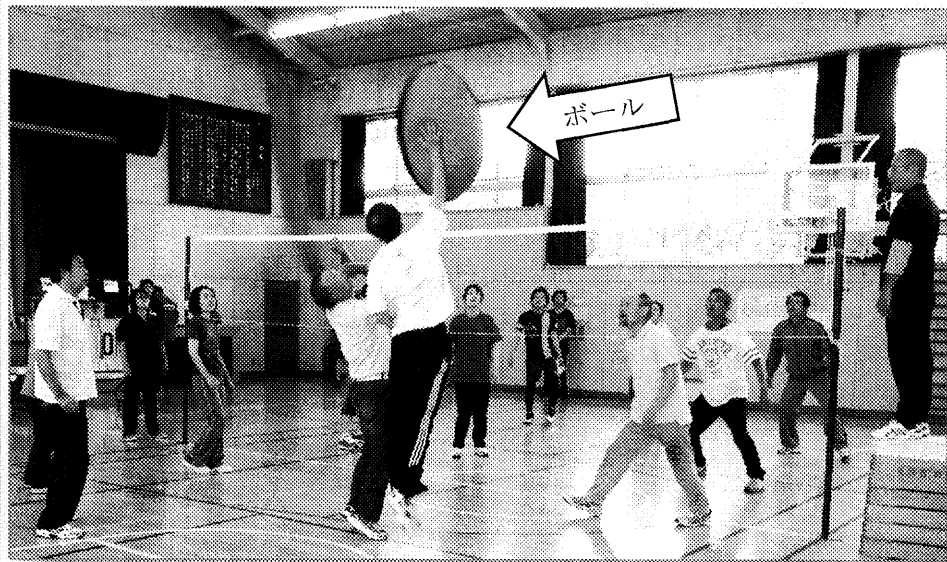
6月4日(日) 荒牧小体育館

今年度新たに導入されたヘルスバレーボール大会が、各地区 A,B チームによるリーグ戦で行われました。1コートでの全20試合でしたが、選手は大きな楕円形のボールに苦勞しながらも好プレー、珍プレーの連続で熱戦を繰り広げ、コート前に陣取った応援団も大いに盛り上がり会場全体が熱気に包まれた一日でした。成績は中荒牧が優勝、準優勝は上宿、3位に新田東、4位下宿、5位団地でした。

初めての競技でしたが、南橋体協スポーツ推進員の方々のご指導を頂いて、けが人も出ずに無事、楽しく終了しました。

荒牧町だより

第180号
荒牧町自治会
広報委員会



町内文化サークルの紹介・1

一緒に楽しみましょう！



町内の文化的サークルでは仲間を大募集しています。これから順次紹介しますので、これはと思ったらまず見学し、よかったら入会を考えてみませんか。

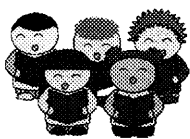
自治会掲示板

緊急のお知らせとお願い
前橋市危機管理室より“まちな安全ひろげたい”に貸与した物品(ベスト、腕章、帽子)の管理を徹底する旨の指示を受けました。

つきましては、皆様のお手元に不要となった当該物品がありましたら至急自治会へ返却して頂きますようお願い致します。

荒牧町ともしびコーラス

一緒に歌いませんか



毎月2, 3, 4週木曜日午前、会員29名により混声三部合唱に取り組んでいます。「翼をください」「南国土佐をあとにして」や「荒城の月」「さくら貝の歌」等の楽曲や「大地讃頌」などの合唱曲等々、楽しい曲・懐かしい曲・歌いたい曲などに組み、市や南橋地区、荒牧町の文化行事で発表や介護施設への訪問などを行っています。

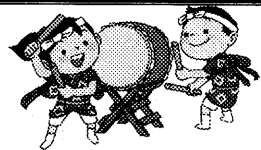
会員の親睦を図り、楽しく合唱を行っています。

上記練習日に”合唱練習の見学”をしてみませんか。コーラスの会員にお声かけください。

連絡先
233-9679
(後藤)



荒牧町八木節保存会



目標：「笑って」「踊って」「楽しんで」

平成28年10月に伝統的な荒牧町八木節を住んで良かった荒牧町に30年ぶりに誕生しました。

その後、男性会員8名が加入して「強力な助っ人指導のもと、地域の人との和を大切にしながら、老いも若きも(若きはちょっといないけど)、一生懸命に楽しく練習に励んでおります。

*活動日 女性 毎月第1・3週木曜日13時30分~15時

*活動日 男性 毎週日曜日17時より(原則)

*指導者 女性：高橋洋子先生、男性：大川英夫先生

*会員 現在16名(女性8名、男性8名)

会員を募集しています。上記活動日に気楽にいらしていただければ幸いです。(富澤)
連絡先 234-5028



荒牧町長寿会春の研修旅行

5月31日～6月1日

今回は快晴のもと、草津よいとこ一度はおいで草津温泉湯畑が源泉の、ホテル高松です。

1日目は、群馬バス「ペガサス」の大型バスにて、吉岡町の卯三郎こけし工芸館の見学。

そして、浅間観光センターで昼食をいただき、ハッ場ダムの工事現場、川原湯温泉代替地などを見学し、草津白根ロープウェイの駅まで行き、シャクナゲや山つつじを眺め、早めに宿に到着、100%の源泉を堪能しました。

夜の宴会は、グループで歌あり、ペアで踊りあり、カラオケ等で楽しみ、延長するほど盛り上がりました。

2日目は、中之条町の花の駅を見学し、昼食は伊香保温泉登り口の上州物産館で、水沢うどんを頂き、舞茸センターを見学して、無事帰宅しました。

尚、秋の研修旅行は、信州白骨温泉を予定しております。(富澤)



地区だより

《中荒牧》

新しい競技に戸惑いながらの優勝！！

第一回ヘルスバレーボール大会は、ラグビーボールを大きくしたようなボールを使い、空中で大きく変化し、返球は1回では反則で、また5回まではボールに接触して返球するルールです。従って慣れないためか、1回で返球することが多く、とまどいながら試合を重ね、選手、応援席から「いち、にい、さん、～」と返球回数を合唱しての一体感を生んだことが勝敗の分かれ目だと思いました。

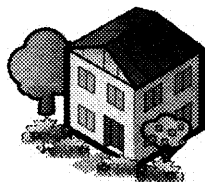
いずれにしても「好プレー、珍プレー」続出の中、老若男女がひとつになり久しぶりに地域の親睦を深め、楽しい汗をかいて盛り上がったことに感謝申し上げます。早朝から役員、選手、応援に駆けつけた皆さん大変にありがとうございました。次回運動会も宜しく願いいたします。

(中荒牧地区代表 砂原 隆)



まちかと探検・44

住んで良かった荒牧町



「十年一昔」とよく言われる。十年も経てばもう昔であるという意味である。

さて、荒牧町の昔はどうであったか。例えば荒牧団地の発足頃からでも現在の姿を予見できた人は恐らく居なかったに違いない。

最も昔日の面影が無いのは、広瀬橋を渡って川原町へ通じる道路とこの両側周辺であろう。以前この道は車がようやく通れるジャリ道であり、雨が降れば通行には中々難儀であった。しかし上毛大橋の開通によりその姿は一変し、往き来する車の数は目を疑うものがあり、交通の大動脈となっている。



上毛大橋 (東より)

この他、町内の雰囲気を変えたのが、大型小型の施設や商店等であろう。昭和45年に群馬大学教育学部が市内のかつての清王寺町から移転してきたのに続き昭和48年には荒牧小学校が開校した。桃川小学校と併せて市内では珍しい一町二校の小学校設立となった。



群馬大学 (正門)



荒牧小学校 (北側)

ちなみに荒牧小学校の一期生は二クラスであり、卒業式は体育館が無かったため群馬大学の教室を借りての挙式であった。

この後も朝鮮飯店をはじめ、各種の飲食店が町内及び周辺には数多く開店し、町民の舌を楽ませている。コンビニ・スーパー・衣料品店も揃い、上毛大橋を渡れば生活に欠かせないより豊富な品々が手に入る。

我々の健康面でも町内と周辺には、内科・歯科・眼科・整形外科・耳鼻咽喉科・ペインクリニック等が開院し充実している。

上毛カルタにある「伊香保温泉天下の名湯」へ行くには車なら30～40分である。東京・新潟方面にも駒寄インターから入ればそれほど苦にならない。

子ども達を遊ばせたり、ゆっくり散歩する上で、交通事故の心配のない敷島公園も近い。市内の東部の町の住民から「荒牧町は羨ましい。荒牧町に住んでみたい」という声を聞いたことがある。

「荒牧町三十年記念誌」によると、以前の荒牧村の村有林を昭和35年にかつての「労住協」に坪1500円で売却したとの記載がある。しかし過日の新聞の折り込みにあった不動産会社のチラシには、荒牧町のどの地区とは触れていないが、坪当たりの売価は15～16万円となっていた。

この地価の上昇によっても荒牧町の評価はかなり上がったことになろう。昭和47年の区画整理事業による移転が始まって以来、整備された町内の町並みは隣接する町と比較しても遜色はない。少子高齢化の問題はこの町にもあるが、本当に「住んで良かった荒牧町」の言葉は的を射てると言える。(赤松)